

米国・代理母の真実を暴く衝撃のドキュメンタリー！

原題 BREEDERS : a subclass of women ?

# 代理出産

## 繁殖階級の女？

A FILM BY THE CENTER FOR BIOETHICS AND CULTURE



日本語版制作／代理出産を問い直す会

### 上映会&コロキウム

2017年 2月18日(土)

13:30～16:30 (13:00 開場)

■会場 大阪府立大学 I-site なんば  
2階 カンファレンスルーム C1

■参加費 500円  
(大阪府立大学 学生・教職員は無料)

### プログラム

- 映画「代理出産—繁殖階級の女？」上映 (約1時間)
- コロキウム「生殖補助医療の現状と不妊治療  
— 孤立化する不妊治療の現状について考える」

講師: 柳原 良江

東京電機大学助教、代理出産を問い直す会代表

長沖 暁子 ※予定

慶應義塾大学准教授、第三者の関わる生殖技術を考える会

コーディネーター: 浅井 美智子

大阪府立大学教授、女性学研究センター

## 映画紹介

代理出産は、早くから21世紀の重要な論争の一つとなってきた。有名人も一般人も、家庭を築くため、ますます代理母を利用している。しかしこの方法は、女性、子ども、そして家族にとって複雑な問題をはらんでいる。

ドキュメンタリー映画『代理出産—繁殖階級の女?』（原題「Breeder: A Subclass of Women?」2014年制作）は、アメリカ国内で、人助けの名目で代理母になった女性たちや生まれた人の語りを中心に、代理出産が、この方法に関係する人々に複雑な問題を作り出す姿を映し出すものである。代理出産という方法は、代理母となった女性、生まれてくる子どもたち、代理母の家族たちにどんな影響を生み出したのか。親族や知人が自己犠牲で代理母になった場合は問題がないと言えるのか? この映画は、一般的に「善行」と信じられている無償の代理出産を軸に、アメリカ国内の代理出産の問題を描き出していく。

## 制作者

代理出産は美しい善行なのか、それとも単なる赤ちゃん製造として妊娠・出産を貶める行為か。

私たちはうまく折り合い方を見つけられるのか。そもそもそれを模索すべきなのか?

本ドキュメンタリーは、米国のNPO団体「The Center for Bioethics and Culture (CBC: 生命倫理文化センター)」により制作された。同団体は生命倫理に関する社会問題を対象に、ウェブサイトを通じた情報発信はもとより、ドキュメンタリー映画制作や、講演、メディアのインタビュー出演などを行っている。米国内の法律制定に係る公聴会はもとより国連でも発言し、国際的に生殖技術政策への政治的発言力を高めつつある。ドキュメンタリー映画としては本作のほか、卵子ドナーの健康被害実態を扱った『eggsplotation (邦題: 卵子提供 美談の裏側)』（2010、2013）、匿名で提供された精子により生まれた人の問題を描く『Anonymous Father's Day』（2011）などがある。

※代理出産を問い合わせるホームページ <http://nosurrogacy.lib.i.dendai.ac.jp/> より作成

## 申込方法

①氏名（ふりがな）、②住所、③電話番号を記して、EメールまたはFAXでお申し込みください。

**申込先** 大阪府立大学 女性学研究センター

Eメール: joseigaku@gmail.com FAX: 072-254-9947

\* 当日参加も可能ですが、準備の都合上、できるだけ事前のお申し込みをお願いいたします。

\* お申し込みの際の個人情報は、本講座の事務連絡、統計資料等の作成および本学公開講座等の案内以外に、一切使用いたしません。

**問合せ先** 大阪府立大学 女性学研究センター

TEL: 072-254-9948

(土日・祝日を除く、14:00~17:00)

## 会場までのアクセス

大阪府立大学 I-siteなんば (南海なんば第1ビル 2階)

大阪市浪速区敷津東2丁目1番41号

- 南海電鉄「なんば駅(中央出口)」より徒歩約12分
- 地下鉄御堂筋線「なんば駅(5号出口)」より徒歩約15分
- 地下鉄御堂筋線・四つ橋線「大国町駅(1番出口)」より徒歩約7分
- 地下鉄堺筋線「恵美須町駅(1-B出口)」より徒歩約7分
- 南海電鉄高野線「今宮戎駅」より徒歩約6分

※駐輪場・駐車場はございませんので、お越しの際は、公共交通機関をご利用いただくか、近隣の有料駐輪場・駐車場をご利用ください。

